

令和〇年(少)第〇〇〇〇号 窃盗保護事件

## 意見書

令和〇年〇月〇日

福岡家庭裁判所 御中

少年 〇 〇 〇 〇  
付添人弁護士 福岡 九州男

上記少年に対する上記事件について、付添人の意見は以下のとおりである。

### 意見の趣旨

上記少年については、不処分とするのが相当である。

### 意見の理由

#### 第1 非行事実について

- 1 本件非行事実、同級生と一緒に車上荒らしをし、自らは見張り行為を行なったという窃盗事件である。
- 2 この点、本件は車上荒らしではあるが被害額が大きいわけではなく、また本人がとった行動としては、近くで周りを見ていたというだけにとどまり、結局のところ逮捕者に見つかって、現行犯逮捕されているのであり、犯行への寄与も低いものにとどまり、軽微な事件であるといえる。  
また、少年自身が主導したわけでもなく、同級生からの誘いに乗って従属的に行なわれたものである。
- 3 したがって、非行事実そのものからすれば、それほど要保護性のある事件であるとはいえない。

#### 第2 要保護性について

- 1 普段の生活状況について

今回の保護事件の背景には、学習塾の帰りに徘徊するなどの生活の乱れがあった。

これに関しては、少年自身及び少年の母親もその問題性を認識し、勾留が解けて以降は、夜間外出などは全く行なっていないし、学校にも真面目に通っている。

また、4月からは高校進学も決まっており、今後も真面目に生活していくことが期待できる。

したがって、この点についての要保護性は解消されている。

## 2 親子関係について

少年の両親は離婚しており、そのことが少年及び母親に影響を与えている面がある。すなわち、少年には父親的な存在がおらず、また離婚の原因が父親の少年を含む家族に対する暴力であったことも災いして、母親は少年に注意するに際しても、あまり強く注意することができないという面があった。

しかし、少年の母親は、今回の件で、この問題を認識し、今後は少年を甘やかせず、叱るべきところでは叱っていかうと考えている。

加えて、もともと少年と母親との関係は良好であることもあわせて考えれば、この点でも要保護性は大きく解消されている。

## 3 友人との関係

少年は、本件非行に同級生に引っ張られるような形で関与しているところ、そのような友人関係を見直そうと考え、勾留が解けて以降は今回共犯者となった同級生らとは一緒に遊んだりしていない。

また、現状では、今回共犯者となった同級生らとは別の高校に進学する可能性も高い。

したがって、友人との関係での要保護性を大きく解消されている。

## 第3 結論

以上のように、少年には非行反復傾向はなく、要保護性はもともと低かった上に現状では大きく解消されているのであり、保護処分は不要である。

よって、付添人は、少年を不処分とすることが妥当であるとする。

以 上